

小山市立博物館

博物館だより

2016
8.15

63

幕末維新期の点描 そのとき小山は

黒船来航から始まり、小山宿を通過して行った天狗党や小山ゆかりの勤王志士、そして戊辰戦争「小山の戦い」を描いた絵巻など、130点あまりを公開します。幕末から明治維新时期にかけて激動の時代をくぐり抜けた貴重な資料をぜひご覧下さい。

【入館料】 大人 200(100)円 大学・高校生 100(50)円 ※()内団体料金

【休館日】 9/20・23・26、10/3・11・17・24・28・31、11/4・7・14・21

▼ 戊辰戦記絵巻物 小山の戦より 長岡市立中央図書館蔵

慶応4年4月17日、小山宿付近で、大鳥圭介が率いる伝習隊本隊(旧幕府軍)が彦根藩兵(新政府軍)を包囲して攻撃している様子を描いたもの。この戦いで戦死した彦根藩兵青木貞兵衛の碑は、現在も天翁院に残されています。



平成28年9月17日(土)～11月23日(水・祝)

* 関連講座 *

9月22日(木・祝) 13:30～

記念講演会「幕末維新期の小山」

講師 大嶽浩良氏(元栃木県歴史文化研究会常任委員長)

10月 9日(日)・10日(月・祝) 14:00～

連続講座 戊辰戦争小山の戦いを知る・見る

10月25日(火)

博物館めぐり～下野の戦場～

11月 6日(日) 14:00～

くずし字読解講座～展示史料を読む～

11月19日(土) 13:30～

講談で聴く「激突!戊辰戦争」 講談師 神田真紅

市内全27小学校の6年生を対象にした「歴史学習」では、博物館に展示されているさまざまな考古・歴史資料の見学や火起こし体験学習を通して、郷土小山の歴史を学習します。

常設展示「小山の文化のあゆみ」、国指定史跡「乙女不動原瓦窯跡」の見学では、学芸員・博物館ボランティアの解説を聞きながら、それぞれの時代の特色や、小山で暮らした人々の歴史について学習します。子どもたちは、瞳を輝かせながら貴重な資料を見たり話を聞いたりしています。その表情からは、先人たちが暮らし、働いてきた姿に思いを馳せている様子が窺えます。



解説の様子



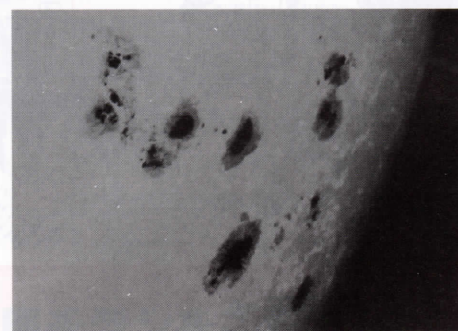
火起こし体験の様子

火起こし体験では、マッチや火打ち石など火を起こす道具の歴史について学習したあと、実際に「まいぎり法」による火起こしを体験します。友達と向かい合いながら、火起こし器を上下にリズムカルに辛抱強く動かすことがコツです。子どもたちから、やっとの思いで火を起こせると「やったー！」という歓声が上がり、授業後には先人たちの苦労や努力を実感した感想を聞くことができます。

この歴史学習が、郷土小山や歴史文化への愛着を深め、今後の社会科学習に対して関心を高める機会になっていることは間違いありません。

平成28年度後期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場で太陽観測を行い、夜は生井公民館で季節ごとに見られる星座や星の観測を行います。これからの季節は比較的天候もよく、空気も澄んできますので、星の観測には最高の時期となります。見どころは、「火星」「プレアデス星団（すばる）」「オリオン大星雲」「木星」です。火星は、現在地球に比較的近い場所にあり、赤く大きく見ることができます。場合によっては、極冠と呼ばれる「氷」まで見ることができます。「木星」は、太陽系最大の惑星ですが、「ほっしー☆OYAMA」号搭載の望遠鏡を使えば、縞模様まで見ることができます。「プレアデス星団（すばる）」は、清少納言の枕草子の中で「星はすばるがよい」を紹介されるほど、その星の集まりが美しいとされている星団です。冬の星座として有名なオリオン座の中に、やわらかく輝く「オリオン大星雲」も見応えがあります。月に一度の夜のひととき、どうぞご家庭でお楽しみください。



観望会の日の11時から12時30分には、博物館駐車場で「太陽観測会」を実施しています。写真は、太陽の「黒点」です。

種紙～蚕種業をささえた紙

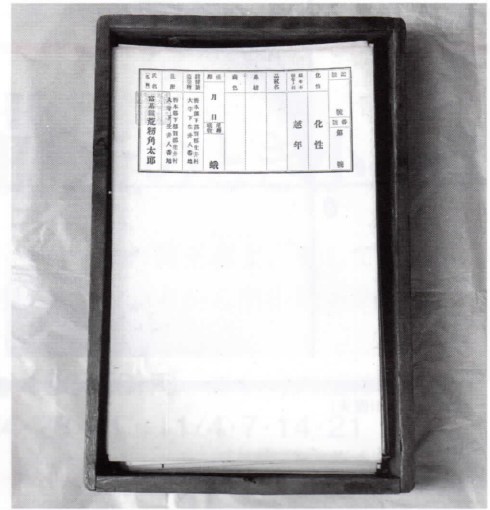
この資料は、市内生井地区で蚕種業を営んでいた荒初家が所蔵していた種紙です。種紙は蚕卵紙とか蚕紙とも呼ばれ、この厚紙に蚕蛾の卵を産み付けたものを養蚕農家に販売しました。

旧生井村の蚕種業は明治の中頃から隆盛を極め、その製造枚数は小山市域の8割近くを占めるまで拡大しました。種紙にある「荒初角太郎」は、生井きつての規模を誇った蚕種農家の出身で、明治20年代には富基館伝習所という蚕種教師の育成所を作り、明治31年には「角又」という良質な新品種を生み出すなど、生井蚕種の全国普及に大きく貢献しました。

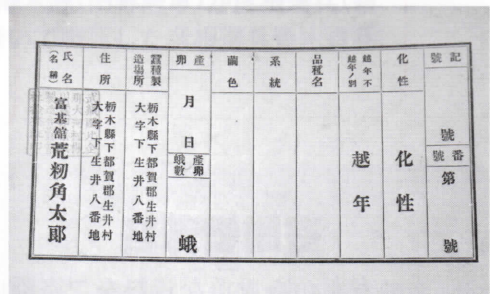
また、「武蔵国比企郡大河村槻川蚕卵原紙製造合資会社検査証印」の角印から、この原紙が細川紙の製造で知られる現在の埼玉県小川町^(註1)で作られたことがわかります。明治5年(1871)から「蚕種原紙規則」が制定され、種紙の製造は免許制となり、その販売も全国で三か所^(註2)の売り捌き所に限定されました。槻川の製造会社は明治32年に設立され、おそらく免許を受けて種紙を製造し販売していたものと思われます。小山における蚕種製造の歴史とその隆盛期を物語る貴重な資料の一つです。

註1：大河村は明治22年(1889)に町村制施行により誕生。昭和30年(1955)に周辺3町村と合併し小川町となった。

註2：明治7年(1873)の「蚕種原紙売捌規則」により、武州深谷、信州上田、岩代福島の三か所に売り捌が所を設けられた。



桐箱に入った種紙



種紙には蚕種の製造者の他、化性・越年・品種・系統・繭色等の記入欄がみえる。

小山の歴史雑話

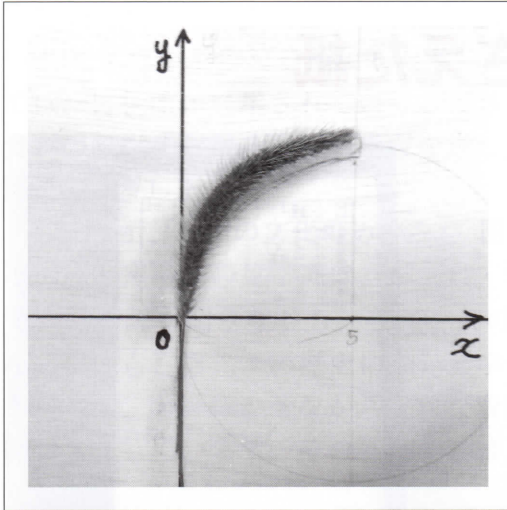
『将門記』に見える「高山」

歴史と文化の発信係長

佐久間 弘行

坂東諸国を制圧した平将門は、下野の豪族藤原秀郷が将門打倒のために立ち上がったと聞き、軍勢を率いて下総国石井(茨城県坂東市)の本拠地から、下野に向かいました。天慶3年(940)2月1日のことです。将門の部将らが「高山之頂」に登り、北に秀郷軍を発見しましたが、部将らはすぐさま秀郷に戦いを挑みましたが、あえなく蹴散らされてしまいました。この「高山」とはどこでしょうか。佐野市の唐沢山とする説がありますが、この日さらに両軍は別の場所で交戦していることもあり、無理があると言えます。秀郷は下野国の押領使(いわば軍事指揮官)なので、国府(栃木市)から出発したと考えられます。ならば「高山」は下総から下野に入ってほどなくの場所で、小山市域と考えるのが妥当ではないでしょうか。市内に高い山はありませんが、小高い丘はいくつかあります。

季節の一枚



(撮影 早川俊夫)

「エノコログサ」と妄想

間々田駅から博物館に向かう道筋で、ゆらゆら揺れているエノコログサに会う。まるで、おはようと挨拶をしているようだ。花穂が犬の尾に似ている所から、犬っころ草とも言われている。

このエノコログサは、難防除雑草と言われ困りもの存在である。一方、花言葉では、「愛嬌」「遊び」と言われ親しまれている面もある。

その花の花穂が一樣に美しい垂れ下がりを見せていることに興味をもった。

そこで、茎をY軸に茎と穂を原点に、穂の垂れ下がり座標軸に合わせると、円の四分の一の円周に重なるように見える？これって、もしかしたら、円の方程式 $(x-a)^2+(y-b)^2=r^2$

a=成熟した穂の長さ b=0 一人興奮！単なる偶然？道ばたの草に興奮させられた一日でした。一人妄想の世界に浸りました。

寄贈者芳名

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 須藤 よう子(小山市)
ジバタ・ザクリ・整経の道具 3点
- 青木 誠(小山市)
保温ジャー 1点
- 角田 憲一(小山市)
黒電話 1点
- 小曾根 悦郎(小山市)
軍服・軍靴・出征旗他 10点

博物館ボランティア・天文ボランティアを募集しています。

○博物館ボランティア

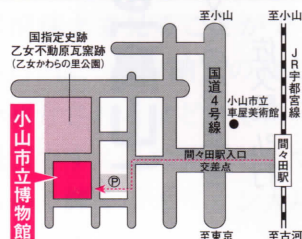
主に毎週土曜日に、博物館内で来館者向けの展示解説をして頂いています。毎月第2土曜日には、打ち合わせと勉強会を開催しています。

○天文ボランティア

主に毎月第2土曜日の天体観測会をお手伝い頂いています。望遠鏡の操作などは未経験でも大丈夫です。

お気軽にお問い合わせください。
担当者 博物館ボランティア 山田淳子
天文ボランティア 早川俊夫

後期講座参加者募集中！詳しくは後期講座チラシをご覧ください。



発行年月日 平成 28 年 8 月 15 日
 発行 小山市立博物館
 〒 329-0214 栃木県小山市乙女 1-31-7 (JR 宇都宮線間々田駅西口下車徒歩 10 分)
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247
 HP <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/>
 印刷 株式会社ダイサン小山